

# 村雲の歴史と自然

## その1

「村雲の歴史と自然を歩くウォーキング周回コース」を開設する。以下ものの書物に描かれている「村雲」の幻想とロマンをアトランダムに書いてみる。

### 村雲は古くから 美味しいお米の産地

『和名抄』(平安中期の書物)に「丹波国多紀郡」の郷名に「草ノ上」とあるのは現在の太田、村雲、福住、草山の四村がその区域であった。今日は小字地に草ノ上というのが存している。草ノ上郷は古くから大雲川(篠山川)上流一帯の地域をさし、古来より神田として、宮廷の献上米の選定地や寺院の荘園として美味しい米の生産地でした。(福原會下山入著「多紀郷土史話」)村雲の米は、天王越えで能勢、河内を経て大和へと運ばれたと言われている。明日香村で「丹波國多貴評草口」の木簡が出土していることでも明らか。(奥谷高史著「丹波の古道」)

この地は、分水嶺である多紀アルプス(三嶽山塊)の山麓に位置し、清水・垂水・井串などの地名にも残っているように湧水・清流に恵まれ、高原盆地独特の寒暖の差、濃い霧などが特徴です。今も、特産「丹波黒大豆」やお米「コシヒカリ」は同地的に美味しい。自慢してよいのでは!

### 地質時代(約1億年前)の痕跡

宝塚市の佐倉利あたりで火山(九州阿蘇に匹敵する大カルデラ、古森 東野 後川の山々はその

外輪山)が噴火し、湖や盆地は火砕流による火山灰が一面を覆い、コンクリート状に固まり、多紀盆地は厚さ2,000mの大岩盤で覆われている。

地質時代中生代白亜紀(約1億年前)古多紀湖は王子山の南山麓を岸部として柔らかな砂浜にさざ波が寄せては返す穏やかな時があったが、ある日突然、火山の爆発、火山灰により永久にセメント化された。漣痕(波のあと)・生痕(ゴカイなどの生物が砂の上を這ったあと)・雨痕(雨の跡)・貝蝦化石等が見つかっている。

この貝蝦は化石動物と言われ、現在も生きている。草ノ上等で五丁六月頃大量発生する貴重な化石生物である。(丹波自然生ずる貴重化石生物である。)

多紀盆地が原始、湖水(古多紀湖)の下にあったときも、福住・大芋・村雲や雲部の一部は陸地であった。雲部の泉・春日江あたりが東の岸辺といわれている。村雲は「草ノ上郷」より後、「村雲郷」となった。村雲は「群雲」の意、「多くの民衆が雲の如く集まる」という意味であり、いち早く農耕民族の集団がこの地に定着、往古より賑わったと考えられる。

### 古くから栄えた村雲 多くの古墳群

丹波四道將軍の墓と言われる「車塚」をはじめ、小立岩井山古墳群(10基、棚付古墳は珍しい)、北条古墳(5世紀一辺30mの方墳)、小田中稻荷山古墳(T字型石室)等はそのしるしである。

また、小立は「大館・小館」の意味もあると言われ、九奈家の館「叢雲御寮」(車塚の東、松ヶ鼻と北条の尾根沿い)など、貴族の荘園や事務所がおかれたのでは?(奥田栄々著「多紀郷土史考」より)

### 古代『三嶽修験道』の隆盛 村雲はその重要な拠点

欽明天皇のとき(573年)日本に仏教が伝来した。その後、大和朝廷で隆盛を極める仏教とは別に、深山幽谷を選んで修業する修験道と山岳仏教も盛んになった。役の行者によって、三岳(畑山 標高793m)に三岳寺が建立され、小金(726m)・西力岳(727m)の三岳三山を中心とする『三嶽修験道』が開かれた。また、多紀郡全体が山岳地帯であり、早くから(6世紀)には、櫻殿寺(火打岩)、西光寺(今田)、燈明寺(草ノ上)など八力寺が建てられたと伝えられている。さらに、彼見には修験者の里坊(6力寺のうち多聞寺が残っている)があり、

四十八滝で水行して、小立清滝山清樂寺(白鳳670年代建立)、草ノ上東尾山燈明寺等が修行の順路だったと考えられる。山岳仏教・修験道は文明年間(室町時代、1480年代)大和

山との抗争で、三岳山伏は敗走、三岳寺も放火により廃亡するまで隆盛を誇った。この村雲が古代から中世にかけて多紀全域で栄えた山岳仏教・修験道の主要な舞台であったこと、それに思いをはせるだけでもわくわくするので?

### 丹波の三鬼 『荒木鬼』の居城 細工所城

近隣の土豪たちを被官とし、「八上城」と、被官・武將の居城を枝城として、丹波一円を支配する強大な戦国大名となった波多野氏に対する攻略が天正5年(1577)、明智光秀によって再開される。天引峠を越えた光秀軍は、まず福住初井城(城主初井綱重は丹波の青鬼)に続いて荒木氏香の細工所城(丹波の荒木鬼、黒井城主赤井直正の赤鬼とあわせ丹波の三鬼と言われた)を攻略。前方は井串瑞祥寺方面から火を放たれ、背後は幡路を経て燈明寺(この時草ノ上燈明寺は炎上)から大筒(大砲)を打ち込まれ、山も城も炎上し、城兵は城を逃れ落城。「井串極楽、細工所地獄、塩岡・岩方鼻たち地獄」の俗謡の通り、激しい戦いであったと言われる。塩岡、細工所は西山、北条辺りから現在のところへ移ってきたと言われている。(梶村文弥「丹波とっておきの話 続戦国動乱の時代」より)

「村雲の歴史と自然を歩くウォーキングコース」のオフショーンコースとして、彼見四十八滝、草ノ上燈明寺、小立・垂水清滝山、細工所城址の四つの登山コースの整備が考えられる。